

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校アートカレッジ神戸
設置者名	学校法人 神戸学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html">https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html">https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html</a>
財産目録	<a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html">https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html">https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html">https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	イラストデザイン学科基礎コース(1年次)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年		1700 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	1944 単位時間/単位	36 単位時間/単位	
			1980 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		9人	0人	4人	8人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目100点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価（提出状況・課題内容）、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が</p>

60 点以上を収めた場合、単位取得となる。  
 授業計画書に基づいた評価・点数により A：100～90 B：89～80 C：79～70 D：69～60 E：59 点以下とし、成績が通知される  
 E は再試験・再課題を実施し、60 点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。  
 なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率を 80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が 60 点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。  
 上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。

卒業・進級の認定基準

(概要)  
 進級は取得総単位数 30 以上  
 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上  
 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。  
 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている  
 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。  
 本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。

学修支援等

(概要)  
 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、様々な芸術の世界に触れることで、学生の感性を磨き作品制作に繋がるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9 人 (100%)	0 人 (%)	5 人 (55.5%)	4 人 (44.4%)

(主な就職、業界等)  
 印刷会社、出版社、デザイン事務所、一般企業のデザイン部署 他

(就職指導内容)  
 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場に必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。

(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	1 人	10.0%
(中途退学の主な理由) 将来の就職希望の方向性が他業界になってしまった為。		
(中退防止・中退者支援のための取り組み) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	イラストデザイン学科イラストデザインコース(2年次)	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	1944 単位時間/単位	単位時間/単位	36 単位時間/単位
			1980 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人	9 人	0 人	4 人	8 人	12 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法(講義、演習、実験、実習など)、授業の内容(授業科目の概要)、年間の授業の計画(授業の回数やスケジュール)、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価(提出状況・課題内容)、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60 点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A : 100～90 B : 89～80 C : 79～70 D : 69～60 E : 59 点以下とし、成績が通知される</p> <p>E は再試験・再課題を実施し、60 点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。</p>

単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。  
 なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率を 80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が 60 点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。  
 上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。

卒業・進級の認定基準

(概要)  
 進級は取得総単位数 30 以上  
 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上  
 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。  
 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている  
 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。  
 本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。

学修支援等

(概要)  
 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、様々な芸術の世界に触れることで、学生の感性を磨き作品制作に繋がるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(主な就職、業界等)

(就職指導内容)  
 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。

(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験

(備考) (任意記載事項)  
 1 年生対象のコースのため、卒業者数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
----------	----------------	-----

9人	2人	22.2%
(中途退学の主な理由)		
① 自身の障害(持病)により学業継続が困難になった為。		
② 将来の就職希望の方向性が他業界になってしまった為。		
(中退防止・中退者支援のための取り組み)		
学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。		
金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	イラストデザイン学科コミュニケーションデザインコース(2年次)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	1944 単位時間/単位	単位時間/単位	36 単位時間/単位
	夜		1980 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		3人	0人	4人	8人	12人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法(講義、演習、実験、実習など)、授業の内容(授業科目の概要)、年間の授業の計画(授業の回数やスケジュール)、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目100点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価(提出状況・課題内容)、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A:100～90 B:89～80 C:79～70 D:69～60 E:59点以下とし、成績が通知される</p> <p>Eは再試験・再課題を実施し、60点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。</p> <p>なお、学生の出席率が80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率が80%以上に補填</p>

<p>したうえで、課題を実施し、総合評価が 60 点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。</p> <p>上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。</p>
<p><b>卒業・進級の認定基準</b></p> <p>(概要)</p> <p>進級は取得総単位数 30 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。</li> <li>2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている</li> <li>3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。</li> </ol> <p>本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。</p>
<p><b>学修支援等</b></p> <p>(概要)</p> <p>個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、様々な芸術の世界に触れることで、学生の感性を磨き作品制作に繋がるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場で必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験			
(備考) (任意記載事項)			
1 年生対象のコースのため、卒業生数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取り組み) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	イラストデザイン学科デジタルまんがコース (2年次)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	1944 単位時間/単位	単位時間/単位	36 単位時間/単位
			1980 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		3人	0人	4人	8人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について 翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価（提出状況・課題内容）、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60 点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A：100～90 B：89～80 C：79～70 D：69～60 E：59 点以下とし、成績が通知される</p> <p>E は再試験・再課題を実施し、60 点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。</p> <p>なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率が 80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が 60 点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。</p> <p>上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・</p>

基準は公開している授業計画書にも記載されている。
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>進級は取得総単位数 30 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。</li> <li>2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている</li> <li>3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。</li> </ol> <p>本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、様々な芸術の世界に触れることで、学生の感性を磨き作品制作に繋がるよう教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場に必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験			
(備考) (任意記載事項)			
1 年生対象のコースのため、卒業生数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%



(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取り組み) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	通信制学科イラスト デザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 74/単位	単位時間 /単位	単位時間 4/単位
	単位時間/78 単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		0 人	0 人	4 人	0 人	4 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価（提出状況・課題内容）、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が 60 点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A : 100～90 B : 89～80 C : 79～70 D : 69～60 E : 59 点以下とし、成績が通知される</p> <p>E は再試験・再課題を実施し、60 点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で 60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。</p> <p>なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率が 80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が 60 点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。</p> <p>上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) 進級は取得総単位数 30 以上 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上
1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。
本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している
学修支援等
(概要) 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、オンライン授業やスクーリング（対面授業）を通してより専門的な教育指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100%)	0 人 ( %)	0 人 ( %)	0 人 ( %)
(主な就職、業界等) 2022 年度新設コースの為なし			
(就職指導内容) 2022 年度新設コースの為なし			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2022 年度新設コースの為なし			
(備考)（任意記載事項） 2022 年度新設コースのため卒業生数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	通信制学科eスポーツ コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 51/単位	単位時間 /単位	単位時間 16/単位
			単位時間/67単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		5人	0人	6人	1人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目100点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価（提出状況・課題内容）、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A：100～90 B：89～80 C：79～70 D：69～60 E：59点以下とし、成績が通知される</p> <p>Eは再試験・再課題を実施し、60点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。</p> <p>なお、学生の出席率が80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率が80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が60点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。</p> <p>上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級は取得総単位数30以上</p> <p>卒業は修行年限2年以上、取得総単位数62以上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。</li> <li>2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている</li> <li>3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。</li> </ol>

本校所定の課程（修業年限2年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している
学修支援等
（概要） 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、オンライン授業やスクーリング（対面授業）を通してより専門的な教育指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
（主な就職、業界等） 2021年度新設コースの為なし			
（就職指導内容） 2021年度新設コースの為なし			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2021年度新設コースの為なし			
（備考）（任意記載事項） 2021年度新設コースのため卒業生数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	2人	40.0%
（中途退学の主な理由） 将来の就職希望の方向性が他業界になってしまった為。		
（中退防止・中退者支援のための取り組み） 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	通信制学科 DX ビジネスコース	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼		単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 72/単位	単位時間 /単位	単位時間 4/単位

		62 単位		単位時間／76 単位	
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	0 人	0 人	3 人	0 人	3 人

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p> <p>（概要）各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価（提出状況・課題内容）、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60 点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A：100～90 B：89～80 C：79～70 D：69～60 E：59 点以下とし、成績が通知される</p> <p>E は再試験・再課題を実施し、60 点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。</p> <p>なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率を 80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が 60 点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。</p> <p>上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級は取得総単位数 30 以上 卒業は修業年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。</li> <li>2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている</li> <li>3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。</li> </ol> <p>本校所定の課程（修業年限 2 年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、オンライン授業やスクーリング（対面授業）を通してより専門的な教育指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
（主な就職、業界等） 2021年度新設コースの為なし			
（就職指導内容） 2021年度新設コースの為なし			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2021年度新設コースの為なし			
（備考）（任意記載事項） 2021年度新設コースのため卒業生数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	2人	40.0%
（中途退学の主な理由） 将来の就職希望の方向性が他業界になってしまった為。		
（中退防止・中退者支援のための取り組み） 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることができるかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	Eスポーツ学科Eスポーツマネジメントコース	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間／単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	3060 単位時間 /単位	単位時間 /単位	60 単位時間 /単位
	夜		3120 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	1人	0人	4人	3人	7人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>(概要) 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。</p> <p>授業計画書には授業の方法（講義、演習、実験、実習など）、授業の内容（授業科目の概要）、年間の授業の計画（授業の回数やスケジュール）、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目100点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価（提出状況・課題内容）、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A：100～90 B：89～80 C：79～70 D：69～60 E：59点以下とし、成績が通知される</p> <p>Eは再試験・再課題を実施し、60点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。</p> <p>なお、学生の出席率が80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率を80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が60点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。</p> <p>上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>進級は取得総単位数30以上</p> <p>卒業は修行年限2年以上、取得総単位数62以上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。</li> <li>2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている</li> <li>3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。</li> </ol> <p>本校所定の課程（修業年限2年以上）を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士（文化・教養専門課程）の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、業界人との交流や現場を在学中に触れ、経験させることで学生の目標設定をより明確かつ具体的に設定させる教育指導を行っている。また、eスポーツ業界で必要とされる知識を計画的に取得ができるよう取り組ませている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数	その他

		(自営業を含む。)	
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場に必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験			
(備考) (任意記載事項) 2021 年度新設、2022 年度に至るまで入学者がいないため、卒業者数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取り組み) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	E スポーツ学科プロ育成コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	1740 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1740 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人	0 人	0 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。 授業計画書には授業の方法(講義、演習、実験、実習など)、授業の内容(授業科目の概要)、年間の授業の計画(授業の回数やスケジュール)、到達目標、成績評価の方



<p>法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。</p> <p>・授業計画書の作成、公表時期について</p> <p>翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価(提出状況・課題内容)、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60点以上を収めた場合、単位取得となる。</p> <p>授業計画書に基づいた評価・点数により A:100～90 B:89～80 C:79～70 D:69～60 E:59点以下とし、成績が通知される</p> <p>Eは再試験・再課題を実施し、60点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。</p> <p>なお、学生の出席率が80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率を80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が60点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。</p> <p>上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>進級は取得総単位数 30 以上</p> <p>卒業は修業年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。</li> <li>2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている</li> <li>3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。</li> </ol> <p>本校所定の課程(修業年限2年以上)を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士(文化・教養専門課程)の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、業界人との交流や現場を在学中に触れ、経験させることで学生の目標設定をより明確かつ具体的に設定させる教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(主な就職、業界等)
(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場に必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験
(備考) (任意記載事項) 2021 年度新設、2022 年度に至るまで入学者がいないため、卒業者数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取り組み) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることができるかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	DX 学科 DX ビジネスコース	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	2016 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2016 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100 人	18 人	18 人	9 人	0 人	9 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業科目について毎年度、学内会議の中で授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各授業を担当する教員が、授業計画書の作成を行っている。 授業計画書には授業の方法(講義、演習、実験、実習など)、授業の内容(授業科目の概要)、年間の授業の計画(授業の回数やスケジュール)、到達目標、成績評価の方法・基準、実務経験のある教員などによる授業科目について記載する。学内統一様式を用いて授業計画書作成を行っている。 ・授業計画書の作成、公表時期について

翌年度の講義予定は1月～2月に担当教員が作成し、3月の学内会議で翌年度の授業計画が承認されることで正式決定する。その後、4月に今年度分の授業計画書をHP上に公開する。

**成績評価の基準・方法**

(概要) 各学科で定める授業科目の随時試験・実技試験の結果、課題評価、授業態度、出席状況により教科ごとの授業計画書に基づいて成績評価を行っている。成績評価に関しては、各科目 100 点満点とし、随時試験・実技試験の結果・課題評価(提出状況・課題内容)、授業態度、出席状況を教科ごとの授業計画書に基づいて評価し、総合評価が60 点以上を収めた場合、単位取得となる。  
 授業計画書に基づいた評価・点数により A : 100～90 B : 89～80 C : 79～70 D : 69～60 E : 59 点以下とし、成績が通知される  
 E は再試験・再課題を実施し、60 点以上の成績を収めた場合、評価は「D」となり単位取得となる。なお、再試験・再課題で60 点未満の場合は、単位認定課題の対象となる。単位認定課題を実施し、授業計画書に基づいた所定の成績を収めたものには評価「D」として単位を付与する。  
 なお、学生の出席率が 80%未満の場合は個別指導を実施し、出席率が 80%以上に補填したうえで、課題を実施し、総合評価が 60 点以上の成績を収めた場合、単位取得となる。これに該当した学生の評価も、一律「D」となる。  
 上記の規定は学生便覧として学生に配布・周知しており、科目ごとの成績評価の方法・基準は公開している授業計画書にも記載されている。

**卒業・進級の認定基準**

(概要)  
 進級は取得総単位数 30 以上  
 卒業は修行年限 2 年以上、取得総単位数 62 以上  
 1. 専門分野の基本的な知識・技術を習得し、広い視野と多様な価値観・社会性を有す。  
 2. 自律的に思考し、物事に取り組むための自己管理能力を身につけている  
 3. 論理的思考力と自己表現力を身につけており、柔軟なコミュニケーションができる。  
 本校所定の課程(修業年限 2 年以上)を修了した者には、卒業証書を授与し、専門士(文化・教養専門課程)の称号を与える。詳細については、学生便覧等に記載している。

**学修支援等**

(概要)  
 個別指導型の授業を行うことで、学生それぞれの能力等を把握し、就職などの目標達成に向けて指導を行っている。また、校外学習や研修旅行を通じ、業界人との交流や現場を在学中に触れ、経験させることで学生の目標設定をより明確かつ具体的に設定させる教育指導を行っている。また、目指す業界で必要とされる資格を計画的に取得ができるよう取り組ませている。

**卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)**

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 ( %)	0 人 ( %)	0 人 ( %)	0 人 ( %)

(主な就職、業界等)

(就職指導内容) 1 年次前期より学生に対し進路面談を行いそれぞれの就職希望先などを聞き取り、授業を通して現場に必要なスキルを身につけさせている。担任と担当職員で学生情報を共有し、就職したい企業、希望職種などを把握した上で学生の希望、適性に沿った就職指導を行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) Illustrator クリエイター能力検定試験、Photoshop クリエイター能力検定試験
(備考) (任意記載事項) 2021 年度新設、2022 年度に至るまで入学者がいないため、卒業者数、進学者数、就職者数、主な就職、業界の記載はしない

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取り組み) 学生、保護者との面談を繰り返し行い本人が何を望んでいてどうすれば続けることが出来るかの聞き取りを行い可能な限り続けられる環境を提供。 金銭的な問題の場合は奨学金担当による説明も実施。		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
イラスト デザイン	150,000 円	820,000 円	740,000 円	イラストデザインコース、コミュニケーションデザインコース、デジタルマンガコース
通信制	100,000 円	240,000 円	200,000 円	イラストデザインコース、e スポーツ、DX ビジネスコース
E スポーツ 学科	150,000 円	920,000 円	740,000 円	E スポーツマネジメントコース、プロ育成コース
DX ビジネス 学科	150,000 円	720,000 円	740,000 円	DX ビジネスコース
修学支援 (任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
-------------

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html">https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html</a>		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
<p>(□) 学校に学校自己評価委員会を設置し、教職員が連携して評価活動を行う。</p> <p>(□) 評価は、学校自己評価委員会が作成した評価表に基づいて行う。</p> <p>(□) 評価結果は、学校関係者評価委員会において評価項目の達成度についての点検を行う。 委員会での点検をもとに各事項についての分析・考察を行い、今後の課題と改善策を示した報告書を纏め、HP等で公開し、教育活動・学校運営の質向上をはかる。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
竹中 豪	2020/4/1～2022/3/31	一般企業 役員
濱野 香織	2020/4/1～2022/3/31	一般企業 管理職
上村 考輝	2020/4/1～2022/3/31	卒業生
西川 日那太	2020/4/1～2022/3/31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)  <a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/pdf/disclosure04.pdf">https://www.art-kobe.ac.jp/information/pdf/disclosure04.pdf</a>		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html">https://www.art-kobe.ac.jp/information/disclosure.html</a>
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4とする。